

第6回太子町総合計画審議会議事録

日時：平成27年12月25日（金） 午後2時～午後3時30分

場所：庁舎4階 全員協議会室

○委員

委員名簿は別途参照。

欠席者

西谷 昌明

田中 美佐江

松井 加陽子

小崎 清文

小野 達也

(オブザーバー)

大西 のぶえ 大阪府政策企画部企画室計画課参事

事務局

太子町 総務室

松村室長、総務政策グループ 横田グループ長、子安主幹、筒井主任

コンサルタント

株式会社かんこう 鎌木、松本

■資料

- ・次第
- ・審議会委員名簿
- ・資料1 第5次太子町総合計画・基本計画 体系
- ・資料2 第5次太子町総合計画基本計画（素案）
- ・資料3 第5回太子町総合計画審議会議事録

■次第

- ・開会
- ・議事
 - (1) 第5次太子町総合計画基本計画（素案）について
 - (2) その他
- ・閉会

【議事要約】

■開会

- ・前回答申された基本構想（案）については、9月議会において全員一致で議決された。

○資料確認

■（１）第5次太子町総合計画基本計画（素案）について

○事務局より資料1の説明

- ・庁内の策定委員会、策定部会、作業部会において協議し、まとめたものである。
 - ・事前配布資料で未記載となっていた評価指標等を追加している。
-
- ・吉川会長：基本構想を受けての各論で、指標目標は67項目となっている。全般についてご意見を願います。
 - ・田中（祐）委員：最初に、総花的なものはやめて特徴のあるものをつくりたいと申し上げた。とは言え、総合計画なので 全項目を網羅しなければいけないというのはわかっている。その中での特徴としてどのようなところに重点をおいているのか。
 - ・事務局：今回の基本計画では、事業の進捗率を評価しやすいように数値目標を掲げた。それが特徴的なところかと思う。今後策定する実施計画の中でも細かな指標をつくり、毎年公表し、事業の評価、点検を行いながら、基本構想に掲げるまちづくりを具体的に進めていく。目標を定めて、それぞれ行政、事業者、住民の役割をしっかりと果たしていきたい。
 - ・田中（祐）委員：それは良いことだが、項目の中でどこに力を入れていくのか。
 - ・事務局：今回は人口減少ありきの計画であり、人口の減少に歯止めをかける施策を打ち出し、協働のまちづくりで、住民とともにこの町を守っていく。第5次では、住民とともに進める事業を中心にやっていきたい。細かいところについては、実施計画を毎年、議会に提出し、予算をつけていただくが、その中で具体的施策をあげていく。基本計画は、大きな目標である。数値を掲げ、それを達成していくことで住民と協働のまちづくりを進め、少しでも人口減少をとめるよう、事業を進めていきたい。公共施設の老朽化の問題もある。住民とともに公共施設のあり方を考えており、それが実施計画の中で浮かび上がればと思っている。
 - ・田中（祐）委員：協働は第4次からやっている。良いことであり、事業としても根付いてきている。住民と協力・交流しながら作りあげていくものに対して、指標を設け、どれだけ参加したのかなどがわかるようにしていくのがよい。
 - ・横山委員：向こう5年、10年が平和な世の中であればよいが、大災害などのマイナス要因が起きたときには、BCPの問題がある。役所としてはどのように考えているか。
 - ・事務局：BCPについては、役所の中で対応しているところである。社会情勢が変わったときには、基本計画の見直しも考えねばならないと思う。
 - ・横山委員：起きたときに右往左往するのではなく、アメリカのようにバックアッププラン、ここまでいってダメだったときはB案でいくというような計画がある方がよいのではないか。トヨタなどの大企業もそのようなことを考えている。切り替えをどうする

かというところまで考えてほしい。

- ・事務局：おっしゃるとおりである。行政では、まず、一番は住民の命を守ること。災害が起きたときにどのような体制で行政を行うかというところから始まる。災害時等に行政がしっかり中心軸になって動けるような体制をつくっている。財源を切り替えるところまでは想定していない。
- ・吉川会長：基本目標5項目のうち、1の医療、福祉、健康分野の施策についてご指摘があればお願いします。
- ・西田委員：今回の特徴は指標とのことである。5年後にアンケートを実施すると思うが、行政がすること、住民がすること、事業者がすることの3つに分けて行うのか。それとも住民の意見だけで指標の値を出すのか。
- ・事務局：たとえば「安心して子どもを産み育てられるまちづくりに対する満足度」は今回、住民にアンケートした項目である。平成32年も同じような指標項目で確認したい。行政側については、施策で設定した細かな指標で判断する。住民や各種団体、事業者に関する指標については、ヒアリングや日々の意見聴取で対応できたらよいと思っているが、今後の検討課題である。
- ・西田委員：P7の「すべての子どもたちが尊重されるまちづくりを推進」に対する指標が、「ひとり親家庭相談数」や「発達障害等巡回相談」となっているが、これがすべての子どもたちにつながるのか。表題と目標・指標につながるのかどうか。
- ・事務局：つながっていないところもあり、策定部会で協議しているところである。ご指摘の部分については偏りすぎているので、担当グループに再検討を要請している。
- ・西田委員：もう一回、変えたものが出てくるのか。
- ・事務局：大きくは変わらないが、評価指標については見直さないといけないところがある。変った場合は、郵送でお知らせする。
- ・羽山委員：PDCAのチェックは、住民側が行うのか、行政側が行うのか。
- ・事務局：来年度から事業評価をやっていく。前期は、事業について、行政側で自己評価するとともに、委員等に客観的に評価してもらおう。後期は住民にアンケート調査を行い、住民からの評価もいただく。
- ・羽山委員：計画倒れにならないように、PDCAをするのであり、チェックには第三者機関を入れる方法もよいかと思う。全項目だと、膨大で費用も掛かると思うが。
- ・事務局：第三者機関については、他市町村の状況を検討し、太子町にとって最も良い形で設置していきたい。
- ・吉兼委員：目標数値について、住民にどのように説明するのか。努力目標なのか、最低限の目標なのか、どうやって決めたのか、大阪府の平均などで企画したのか、トレンドで決めたのかなど、住民が納得できる説明ができるかどうか心配である。今回、協働社会をつくっていくことに力が入っていると思うが、協働とは住民と一緒にやっていくことである。行政の情報公開だけでなく、住民の声を吸い上げていくことが重要であるが、その仕組みが具体的でない。アンケートだけでは少し弱い気がする。アンケートは1年に1回行うのか。
- ・事務局：施策の数値については、26年度は実績、32年は仮でもよいということで担当部

署に入れてもらっている。ただし根拠を必要としており、精査はできていないが、大阪府の平均など何らかの根拠のある数値である。

アンケート調査は、毎年でなく、5年後の基本計画見直し時に実施する。行政の自己評価、第三者機関による評価は毎年行う。

- ・吉兼委員：社会状況の変化で施策の優先順位が変わることがあると思う。その場合は行政の自己評価を中心に考え、変えようと思ったときに住民に問いかけるということになるのか。5年に1回では追いついていけないと思う。また、住民が協力したいという気持ちにならなければならないが、住民の側から協力できるという声があがるようにするにはどうすればよいのか、興味あるところである。
- ・吉川会長：協働の方式は部門ごとに異なるかと思うが、いままで、どのような形で協働を行ってきたか。
- ・事務局：小さなことでは、町長直通便。そのほか、いつでも要望があれば承る仕組みもある。あらゆるところで活動している団体の方と話したいと考えている。いろいろなセクション、部門で計画書を作っているのそこで聞き取りながら、行政も含めて優先順位を決めていきたい。すべての住民の声を聞いて優先順位を決めるのがよいのだがそのような仕組みはない。行政がいま持っている仕組みを利用して聞き取り、優先順位を見極めていきたい。
- ・吉川会長：広報誌も使われていると思う。2の安心・安全についての意見はないか。
P10の医療について、医師会の関係はどうなっているか。町に医師会はないのか。
- ・事務局：富田林医師会に加入している。医療機関については富田林医師会を通じて協力を求めている。
- ・西田委員：P11の指標、「保険制度の充実」と「国民健康保険料徴収率」は表題とあわない。P14の「高齢者福祉の充実」に記載の「自助」「共助」「互助」「公助」とP17に記載の「自助」「共助」「公助」については意味が異なると思う。文言の説明をしっかりとしてほしい。
- ・事務局：文言については、注釈等を入れていく。全体の統一感についても見直していく。
- ・西田委員：P13のソーシャルワーカー数など施策で向上していく数値がある。一方、P14の乗合ワゴンの利用者数は2カ月290人から延べ6,000人となっており、バスを2台に増やすのかと思う。指標としていろいろな数字が出てくる。
- ・事務局：根拠を示していきたい。
- ・西田委員：先にいってよろしいか。
- ・吉川会長：結構である。
- ・西田委員：土地利用の方針では6ゾーンとの説明があった。P19の景観計画・地区計画区域数の5は何か。
- ・事務局：これは都市計画の地区計画の区域数であり、基本構想のゾーンではない。
- ・田中（祐）委員：インター周辺については地区計画を打たなくてよいのか。
- ・事務局：開発許可で造成する分は地区計画の必要性はない。
- ・田中（祐）委員：P20に「都市計画道路整備率」が94.8%から100%になるとあるが、現在進捗中の事業が終わったら何もしないということになってしまう。それ以外の道路

整備についても指標で表せないか。

- ・事務局：指標については精査しなければならないと思っている。

目的を達成した事業についても、さらにブラッシュアップしていかねばならない。ここに載っていない事業についても、各セクションが指標を設定し、実施計画で示していくことになる。逆に目標達成が悪いものはPDCAで検証していく。社会情勢の変化に伴うものは実施計画等でカバーしながら、新たな設定をしていければと思う。ここには目標を達成するための指標の主なものを入れている。反映できるご意見は反映し、ご報告していく。
- ・吉川会長：現時点では見通せないものが結構あるかと思うが、気の付くことがあれば、ご指摘をいただければ幸いである。

P28の「観光ボランティアガイド受入者数」とはどういう意味か。
- ・事務局：この数字は、観光ボランティアを5人で利用したら5人というような数字を積み上げたもので、太子町内でボランティアを利用した人の人数である。町外の人が多い。
- ・西田委員：住民参加と言っているが、「イベント参加者数」は町外の人を含む数字だと思う。2本立てにするなどして、町内の人を何人かを示した方がよいのでは。
- ・事務局：その辺も含め、精査し、わかりやすく目標設定していきたい
- ・吉川会長：「南河内全体の観光ネットワークの充実」は結構かと思う。そのためにも数値を詳細に出していただけたらと思う。
- ・西田委員：P24、25の農業について、基幹産業と言われている農業であるが、今の指標の値を少しでも上げていくことは生半可なことでは難しいと思う。また、農業をやっている人は住民に相当するのか、事業者に相当するのかわかりにくい。
- ・武矢副会長：設定数値の根拠までを書き込むべきなのか、根拠は行政で持っておき、シンプルな計画にするのか、それぞれのページの建て付けについてのご意見をいただきたい。
- ・吉兼委員：努力目標なのか、最低目標なのかといった数値を決めるための考えは書くべきである。1つ1つの数値の根拠の記載は不要かと思う。

私がわかる数字をみると、妙に控えめな数字のような気がして、もう少し頑張ってもよいように思う。たとえば、自治会の加入率は増えることはないとの考えになっているが、新しい公共など自治会に頼らない新しいコミュニティづくりのようなものが出てこないといけないのではないか。
- ・武矢副会長：先程の「イベント参加者数」は、観光ということで、外部から人を呼んでこようという趣旨の目標設定なので、あえて町内、町外を分ける必要はないのではないか。また、住民の参画については、協働の部分での指標を用いていく。わかりやすくというのは、それぞれのテーマに沿った目標の立て方をきっちり説明するということでよいか。
- ・羽山委員：P25の「遊休農地利用者数」について、平成26年度は35人、平成32年は50人の目標となっている。50人の目標を達成すれば、遊休農地はなくなるのか。太子町にはどれだけの遊休農地があるのか。

- ・事務局：確認できていない。再度、協議する。
- ・羽山委員：6次産業化と言われる中、生産物を加工品にして販売ルートに乗せる、アンテナショップで売る等の方法も考えたらどうか。道の駅での販売や学校給食での提供だけでは、生産についていけないのではないか。東北や山梨県など農産物を輸出しているところもある。太子町はブドウやみかんが特産物であるが、ブドウにしてもデラウェアではない品種もできていると思う。販路についても計画に入れていただいたらどうか。
- ・吉川会長：廃棄物処理について、P23の4行目に「ごみの発生抑制とともに、再資源化」とあるが、何か予定があるのか。残飯をドッグフードに変える工場など他所では大規模な工場方式が出てきている。再資源化の具体的な方法、予定を教えてください。
- ・事務局：これは大きな基本施策であり、具体的なものは実施施策で位置付けることになる。環境を担うグループでは何らかのアクションを出すことになるかと思う。予算も伴うが、何らかの取組を進めていく認識はある。
- ・吉川会長：何らかの目玉があればよいと思う。
- ・阪本委員：資源ごみの回収は、私の町内会でもやっており、全町会が行っていると思うが、年間何十トンというゴミが回収されている。住民が取組むことの中で、相当大きなウエイトを占めていると思う。住民が取組むべきこととして、あげていただければと思う。
- ・田中（祐）委員：教育関係について、学校教育で学習だけさせておけばよいように見え、地域とともに育てると言いながら、そのあたりが見えてこない。スポーツ団体等、地域で一生懸命に活動している団体もある。そういったところと連携して子どもを育てることが大事であり、指標にも入れておくのがよいのではないか。
- ・事務局：いただいているご意見は担当セクションに伝えていきたい。
- ・田中（祐）委員：英検のことが書かれているが、全国学力調査などもある。それはぜんぜん検討されていないのか。
- ・西田委員：学校に関してはいろいろな数値があると思う。不登校者率は何をして下げるのが望ましいのかといったこともある。教育の柱立てについて、最初は子どもたちのことが書かれている。(2)の生涯学習のところでは大人も含めているが、住民が行うことには、子どものことが書かれており、これだけでよいのかと思った。
- ・吉兼委員：せっかく、協働と言っているのに、これを読むと行政が5年後にやってくれるように読める。事業者や住民と協働するとこの数字に到達する、一緒にやってこの数字に到達しましょう、というメッセージがあるとよい。自分たちも協力することで達成できる、その環境づくりを行政が手伝う、というふうにすれば、数字が自分のものになる。でないと批判的に、できていない、数字が低すぎるという議論になる。住民や事業者がどういうところに協力したいかを聞きながら、5年間で一緒になってつくっていくというメッセージが弱い気がする。
- ・村井委員：私も近い意見である。5年に1度のアンケートだけでなく、もっと住民に活発にチェック・評価してもらえる仕組みを工夫したらどうか。将来像は未来をつなぐところなので、子どもたちの意見も入れてほしい。半年に1回、地区ごとに座談会を

行うなど、できるだけ多くの人の意見を取り入れるための工夫をしてもらった方がよいと思う。

- ・ 小路委員：P27の観光振興について、「観光振興の現状に対する満足度」の1.9が平成32年には向上するという考えのようだが、このままの状態では無理だと思う。10年ほど前から「たいし聖徳市」、その後、「太子聖燈会」、「竹内街道灯路祭り」を行っており、現在の参加者数は延15,500人、平成32年には17,000人とすることになっているが、他所からも協力してもらわないといけないと思う。観光協会ができて3年、観光でいろいろの方に来てもらおうと思うならば、もっと資源をよくしていかないといけない。
- ・ 田中（祐）委員：P47の自主財源比率の目標であるが、控えめな目標が多い中、これはかなり大きい目標になっている。町の努力だけではどうしようもない面もあると思うのだが、どのように設定したのか。
- ・ 事務局：現状は、担当部局からあがってきた数字をそのまま載せている。精査し、根拠を示したい。
- ・ 西田委員：P47の「ふるさと太子応援基金寄付」については、件数を示した方がよいのではないか。
- ・ 事務局：件数にするか、金額にするかなど悩んでいるところである。
- ・ 筒井委員：定まっていない数値が出ているところが多い。P23のごみの排出量について、人口減少で達成するのではないかというほどの控えめな数字になっている。皆でやって達成する数字を、頭を悩まして検討してほしい。
- ・ 村井委員：P24の農業について、現状と課題に、農家戸数や面積が減っている、農業の担い手を育成する、と記載されているが、現在、担い手になっている人は、指標にあるような遊休農地利用者、援農隊参加者等を求めているのかどうか。新規就農等もよいが、実際営農している方に関する指標が弱く、抜けている感じがする。新しく育成しても、一方で大規模な農家が廃業するのでは意味がない。精査した方がよい。
- ・ 筒井委員：P33の「不登校者率」についてだが、高校生の息子が中学生だった頃と比べ、中学校では、学校に通えない子どもが目につき、増えてきている気がする。学校の先生方だけでは手に余ると思う。先生の数を増やすのか、地域の方が何らかの協力をするのか、不登校者を学校に向かわせる方法について、行政の方がどのように考えているのかをお伺いしたい。
- ・ 事務局：教育委員会に伝え、個別に連絡するなど何らかの形で回答する。
- ・ 筒井委員：英検を全員受験させる高校が増えているが、これだけが英語教育の充実ではないと思う。その他にはどのような形でやっていくのか。
- ・ 事務局：あわせて教育委員会に申し伝える。
- ・ 筒井委員：元気な子どもということで初等教育のことだと思うが、長男が山田小学校に通っていた頃、先生方とPTAとで土曜塾をやっていた。保護者が土曜日に教室を行ったり、田んぼを借りて作物をつくったりしていた。それが上の子の生きる力になっていると思う。勉強も大切だが、体で覚える地域の特徴のようなことに、行政も入って、小学生時代に取組めるとありがたい。次男が小学生になったときは土曜塾がなくなっていた。当時の先生にお聞きすると、先生全員が関わるのは大変だというお話だ

った。子どもが地域に関わるが増えるとういことかと思う。

- ・横山委員：評価すべきということは、以前私が言ったことだが、数量評価については役所が言い出したことである。数量評価が適していない項目もあり、数量評価にこだわることはない。話し合いの中で、前よりよくなったなどという評価方法もある。そこは、行政の方にお任せするのも構わないと思う。
- ・吉川会長：ご意見の一つとして伺っておく。
- ・田中（勲）委員：総合計画ができて終わるのではなく、実施計画にどのように生かすのかが重要である。総合計画は、町長次第で変わるし、何かあるとまったく変わってしまう。目標としての計画であれば、総花的にはこのようなものかと思う。実施計画を着実にいき、毎年1回くらいはこの審議会を開いていただきたい。
- ・吉川会長：いろいろなご意見をいただき、事務局も大変かと思うが、原課とつないで、内容をボトムアップしていただきたい。
- ・事務局：たくさんご意見をいただいたので、事務局として総まとめをさせていただきたい。こういったわかりやすい形の総合計画の策定は本町では初めてである。数値目標についての考え方についても、グループによって温度差があり、積極的な数字を出すところもあれば、シビアな形を出すところもある。何の目標かわかりにくいところもあるので検証し直して、地域にあった目標を決めていきたい。
ご了承いただきたいが、第5次総合計画基本構想の達成が目的であり、すべての細かな目標までを掲げるのは難しい。少なくともこれだけは達成したいという目標を掲げる。あとは実施計画の事業を毎年議会にあげ、住民にはホームページや広報で知らせる中で検証していきたい。また、少なくとも毎年、第三者の目で評価をしていただけるようにしたい。
もう一度検証しなおして、皆様のお手元にお配りするが、しばらくお時間をいただきたい。よろしく願います。
- ・吉川会長：この委員会で、年に1回ずつ見ていくのもよい。
本日はありがとうございました。

■（2）その他

○今後のスケジュール

- ・平成28年2月末頃に最終審議会を開催し、基本計画の答申をいただきたい。
- ・その前の1月末～2月初めにパブリックコメントを実施するが、それまでに、本日のご意見等を反映した案を皆様に配布する。
- ・タイトなスケジュールになるが、ご協力をよろしく願います。

■閉会

以上

第5次太子町総合計画審議会委員名簿

条例第3条第2項第1号（町議会議員）			
	羽山 茂男	はやま しげお	町議会議員
	西田 いく子	にしだ いくこ	町議会議員
	村井 浩二	むらい こうじ	町議会議員
	田中 祐二	たなか ゆうじ	町議会議員
条例第3条第2項第2号（住民）			
	田中 一勲	たなか かずのり	社会福祉協議会
	小路 義弘	しょうじ よしひろ	観光・まちづくり協会
	西谷 昌明	にしたに まさあき	区長会
	筒井 真澄	つつい ますみ	P T A連絡協議会
	田中 美佐江	たなか みさえ	やわらぎ幼稚園
	松井 加陽子	まつい かよこ	松の木保育園
	阪本 喜久夫	さかもと きくお	保健事業推進協議会
	小崎 清文	こざき きよふみ	公募
	横山 素夫	よこやま もとお	公募
条例第3条第2項第3号（学識経験を有する者）			
会長	吉川 寿一	よしかわ ひさかず	大阪城南女子短期大学教授
	吉兼 秀夫	よしかね ひでお	阪南大学教授
	小野 達也	おの たつや	大阪府立大学准教授
条例第3条第2項第4号（町及び関係行政機関の職員）			
副会長	武矢 幸信	たけや ゆきのぶ	副町長